THE YOMIURI SHIMBUN

夕刊 讀賣新聞

2014年(平成26年)
4月5日土曜日

文化とときめき

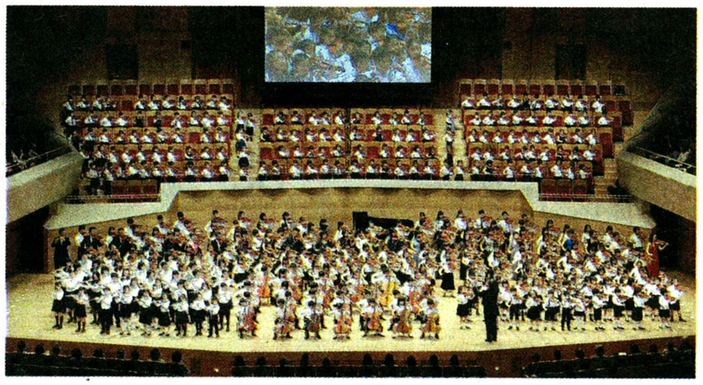
海外演奏開始50年

スズキ・メソードが記念公演

バイオリン教育で知られる「スズキ・メソード」が行っていた、子供たちによる海外演奏旅行「テン・チルドレンツアー」の開始から今年で50年。それを記念するコンサートが3月31日、東京・赤坂のサントリーホールで開かれた。

同メソードは、名バイオリニストの江藤俊哉らを育てた鈴木鎮一（1898～1998）が戦後に確立。1964年からスタートした10人の選ばれた生徒「テン・チルドレン」の海外ツアーによって、世界各地に広まった。

この日のコンサートには、第1回のツアーに参加したバイオリニストの大谷康子ら卒業生と、小・中学生中心の子供たち計500人近くが出演。同メソードの音楽教室で学んだ曲を披露し、最後は鈴木編曲の「キラキラ星変奏曲」を全員で合奏して華やかに幕を閉じた。



スズキ・メソードの「テン・チルドレンの50年」記念コンサート（才能教育研究会提供）

「ニューヨークの国連本部での演奏が思い出深い」という大谷は、幼少から反復練習や合奏の経験を積むことで「母国語を話すように演奏し、協調性などを身につけるのに役立った」と話す。

同メソードは幼児のための音楽英才教育と見られがちだが、音楽を通じて豊かな心を育むのが本来の趣旨。「楽器演奏は教育の手段であって目的ではない」（大谷）。コンサートでも医師や会社経営者、能楽師らがバイオリンを手に登場し、裾野の広さを印象づけた。

海外ツアーは94年に終了したが、現在では全世界で約40万人がバイオリン、チェロ、フルート、ピアノを同メソードで学ぶ。特にアメリカには約30万人の会員がおり、ヒラリー・ハーンら世界的なバイオリニストを送り出している。

同メソードが産声を上げて今年で68年。世界に誇る総合教育システムとしての役割・成果に、もっと注目が集まってもいいだろう。

（松本良一）